

CMSC福島・高橋選手、A-IIIクラス8位と健闘

全日本ダートトライアル選手権
第7戦オールスターダートトライアル'89
11月11、12日名阪スポーツランド

'89年を締めくくるとダートトライアルのビッグイベント、オールスターダートトライアルは11月11、12日に名阪スポーツランドで行われた。

CMSCメンバーも、ダートラではずいぶん活躍している。オールスターには砂塚明男選手、荒井信介選手、高橋正喜選手などが参加、ギャランVR-4で激戦のA-IIIクラスを闘った。

期待の砂塚選手は1トライ目はリタイア。高橋、荒井の両選手は好調な出足かと思われたが、惜しいパイロンタッチでふたりとも1分22秒後半のタイムだった。高竹優之選手もパイロンタッチで1分24秒台で1トライ目を終える。

そして2トライ目。砂塚選手はことしのシリーズで見せてくれた華麗な走りに比べると、いまひとつ調子が出ない。1分23秒960と、不本意なタイム。高橋、荒井、高竹の3選手はパイロンタッチこそなかったが、いずれも1トライ目のタイムを縮めることができなかった。

ベストタイムをたたき出したのは、強敵レガシィを駆る山下公男選手。1分21秒037というタイムだった。結局、A-IIIクラスの優勝は山下レガシィで、CMSCメンバーは高橋選手が8位、荒井選手が9位、砂塚選手が15位、高竹選手が16位にそれぞれ入った。



A-IIIクラス 8位のCMSC福島・高橋正喜選手



A-IIIクラス 9位のCMSC群馬・荒井信介選手



A-IIIクラスシリーズ 3位の砂塚明男選手

CMSC山形 砂塚明男選手

この世界に魅せられ、のめり込んで早、15年、二度ある事は、三度ある。

ここ一番のオールスターダートトライアルで三度目の転倒をしてしまいました。

それでも全日本でA-3クラス三位、C地区一位をと言う成績を残す事が出来ました。

一年を振り返って見ますと、第一戦丸和、第二戦九州と調子がでず、七位どまり、第三戦秋田はあわや優勝と思いきや二位。このミナミユースランドは、高速で私の好きなコースの一つです。第四戦北海道、砂川サーキットも高速で背中に冷汗が出るほど、自信とそして燃え立っていたのですが、三位に終わり好きなコースなので来年こそは……。

第五戦大雨の鈴鹿七位ウェットのむずかしさを、痛感。そして第六戦広島、初めて見るタカタサーキットの路面の良さに、ビックリ。丸和と同じか、それ以上の良さ、チョット攻め過ぎたかバンクで足廻りをいため四位。

そして魔のオールスター。転倒してルーフがつぶれフロントガラスが割れているのに、フレームもビラーも壊れていない。改めてギャランのボディの強さに頭が下がる思いです。他のチームメカニックの人達の手をかりガラスを入れ替え、2トライ目は無事完走する事が出来ました。

この一年間北海道から、九州へと走り回る事ができたのもスポンサー各社のお力添えがあったからで

す。この紙面を、お借りしまして、お礼申し上げます。又来年も全日本戦を全開で、チャンピオンをねらいたいと思います。

砂塚 明男



大西選手(CMSC青森)シリーズ4位

'89全日本ラリー選手権シリーズ

ギャラン、ブルーバード、レガシイが熱い闘いを繰り広げた'89全日本ラリー選手権シリーズのCクラス。シリーズチャンピオンは桜井幸彦選手が獲得したが、CMSCメンバーの大西康弘選手がシリーズポイント4位と健闘した。

'89シーズンの全日本ラリー選手権シリーズは、シーズン序盤から大いに盛り上がった。とくにCクラスはトップ・ドライバーがシーズンゲームを演じるという、ラリーファンにとってはこたえられない内容だった。

有力マシンは、我が三菱のギャランVR-4。クロスミッション搭載車も登場して、ギャラン・ユーザーからも好評だった。これにブルーバードが続く。とくに綾部美津雄選手、神岡政夫選手はギャランをおびやかした。シーズン中盤には水平対向4気筒DOHCターボエンジンを搭載したレガシイが登場、まさに三つ巴の争いとなった。

全日本戦に出場するCMSCメンバーはまだまだ少ない。日本を代表するラリー・イベントとしてレベルも高く、また、Cクラスではギャラン、Bクラスではミラージュ、Aクラスへはミニカ・ダンガンと車種も限られ、しかも出場に当たっての準備、それにかかる費用などは地方戦を上回ってしまう。

しかし、三菱自動車工業およびラリーアートではラリー用パーツの開発に今までにないほどの力を投入しており、今後は出場しやすい体制が整うだろう。'89シーズンは大西選手が大健闘を見せたが、ぜひ、大西選手に続く若手の台頭に期待したい。

また、'89シーズンでは、夢半島ラリーin能登がオーガナイズ不備でJAFの公認を得られず、これに出場したドライバーの全日本戦ポイントが認められないというアクシデントがあった。マシンの改造問題も含め、ラリー運営上の大きな問題として、ことしは主催者側の姿勢も問われよう。

JAFモータースポーツ委員会・ラリー小委員会では、寺尾委員長が①地域で無理のないラリーの開催②ラリーの社会性への配慮③フェアな競技——の3点についてとくに強調した。また、小委員会では'90年からスタート順をAクラス→Bクラス→Cクラスとすることや、主催者はラリー2ヵ月前に事務局をオープンすること、車両違反で失格した競技者はそのシーズンのエントリーができないことがそれぞれ決定されている。

'90全日本ラリー選手権は、第1戦・DCCSウィンターラリーが2月3、4日、第2戦・ACKスプリングラリーが4月21、22日とそれぞれ決定している。来シーズンも、CMSCメンバーの大いなる躍進が期待される所だ。

有効ポイント202点でCクラスシリーズ4位の大西選手▶



▲第9戦夢半島in能登での大西選手の走り

ダートラで絞めくくった'89年、来年もやるぞ!

'89CMSCアストロトリアルII '89JAFダートラ四国地方選手権最終戦 10月8日(日)

CMSC香川、ことし2回目のダートトリアルは'89JAFダートトリアル四国地方選手権の最終戦(第10戦)として行われました。1回目はシリーズ開幕戦ということもあって参加台数はかなりのものでしたが、今回はポイントが決定していたクラスの参加が少ないため全部で50台。それでも、CMSC香川恒例!?の雨もほとんどなく、コンディションに恵まれたなか、最終戦にふさわしい熱戦が展開されました。

さて、三菱車の活躍が期待されるA-II、A-IIIクラスですが、今回はクラブ員がすべてオフィシャル

にまわったことや、シリーズポイントが両クラスともほぼ決定していることが重なり、三菱車でのエントリーはA-IIIクラスの金森聖選手(ギャランVR-4)だけ。CMSC香川としては少々さびしい内容でしたが、金森選手はクラス4位と健闘(当然三菱賞も1位)してくれました。

無事、ことしのイベントを終え、ホッとひと息ついているCMSC香川。これも本部の方々のご援助のお陰と感謝しています。来年もダートトリアルとラリーを1戦ずつ主催する予定です。また、応援して下さい。(CMSC香川 白井 修)



CMSC香川 金森聖選手▶